

令和3年度 学校経営計画 各教科重点目標と達成方法

国語科 2021年度重点目標																			
重要度 [4]大変に重要 [3]やや重要 [2]あまり重要でない [1]重要でない	達成度 [4]75～100% (ほぼ達成した) [3]50～74% (まあまあ達成した) [2]25～49% (あまり達成できなかった) [1]0～24% (ほとんど達成できていない)	項目1	目標	① 学年や到達段階に応じた国語の力を生徒に身につけさせる。															
			達成方法	・漢字テストや単語テスト、文法テストなどの小テストを定期に実践する。また、読書や副教材やプリントを用いた課題(宿題)を理解度に応じて与えることで、家庭学習においても自発的に国語の学習に取り組めるようにする。															
				・中学では読書指導や百人一首の暗唱などの活動を通じて文章や言葉に常に興味を持たせていく。															
				・中学段階から論理的に物事を考え、理解するための言葉や文章を身につけ、基礎力の充実を図る。 ・高校段階では、現代文を通じて現代のさまざまな問題に対して多角的な見方や考え方があり、広い視野のもと、物事を考えられるようにする。また、自分の考えを筋道立てて表現できるようにする。 ・古典を通じて歴史や文化の特色を理解するとともに、文法や句法の分析を通じて読解を深め、問題を解決できる力を養成する。															
重要度 [4]大変に重要 [3]やや重要 [2]あまり重要でない [1]重要でない	達成度 [4]75～100% (ほぼ達成した) [3]50～74% (まあまあ達成した) [2]25～49% (あまり達成できなかった) [1]0～24% (ほとんど達成できていない)	項目2	目標	② 生徒が積極的に国語の学習に取り組める授業を実践する。															
			達成方法	・授業では、音読の機会、発問の機会、発表や発信の機会をできるだけ多く増やし、受け身ではなく主体的に授業に参加させていく。															
				・多種多様な文章を多く取り上げて扱うことで、読解力や表現力の基本となる多くの語彙やさまざまなものの考え方や感じ方に触れさせ、習得させていく。															
				・タブレットの活用と、「スタディサプリ」などの自習教材アプリを活用し、能動的な学習を習慣化させる。 ・特に中学では学年内の他教科と連携して、課題量を生徒の負担になりすぎないよう勘案し、生徒が取り組みやすい環境をつくる。															
重要度 [4]大変に重要 [3]やや重要 [2]あまり重要でない [1]重要でない	達成度 [4]75～100% (ほぼ達成した) [3]50～74% (まあまあ達成した) [2]25～49% (あまり達成できなかった) [1]0～24% (ほとんど達成できていない)	項目3	目標	③ タブレットや電子黒板を用いて、音声教材、映像教材を取り入れた五感を刺激する授業を実践する。															
			達成方法	・教員間で密に連携しながら、授業研究を深める。授業見学なども積極的にを行う。本文掲載や板書補助、映像や音声資料を自宅学習生徒にはzoom、Youtube、manaba、loiloで、対面学習生徒には電子黒板で積極的に活用する。タブレットの活用により、意見、発言のアウトプットを促す。															
				・定期考査や小テストにおいて成績が伸び悩んでいる生徒には放課後や長期休業中に課題や補習を課して伸長をはかるとともに、生徒のニーズに応じ、授業や放課後講習などで積極的に演習(入試問題演習)を実践して、能力を伸ばしていく。															
				・定期考査や小テストにおいて成績が伸び悩んでいる生徒には放課後や長期休業中に課題や補習を課して伸長をはかるとともに、生徒のニーズに応じ、授業や放課後講習などで積極的に演習(入試問題演習)を実践して、能力を伸ばしていく。															
重要度 [4]大変に重要 [3]やや重要 [2]あまり重要でない [1]重要でない	達成度 [4]75～100% (ほぼ達成した) [3]50～74% (まあまあ達成した) [2]25～49% (あまり達成できなかった) [1]0～24% (ほとんど達成できていない)	項目4	目標	④ 生徒の進路実現の為に、個別に親身になって生徒に対応する。															
			達成方法	・定期考査や小テストにおいて成績が伸び悩んでいる生徒には放課後や長期休業中に課題や補習を課して伸長をはかるとともに、生徒のニーズに応じ、授業や放課後講習などで積極的に演習(入試問題演習)を実践して、能力を伸ばしていく。															
				・定期考査や小テストにおいて成績が伸び悩んでいる生徒には放課後や長期休業中に課題や補習を課して伸長をはかるとともに、生徒のニーズに応じ、授業や放課後講習などで積極的に演習(入試問題演習)を実践して、能力を伸ばしていく。															
				・定期考査や小テストにおいて成績が伸び悩んでいる生徒には放課後や長期休業中に課題や補習を課して伸長をはかるとともに、生徒のニーズに応じ、授業や放課後講習などで積極的に演習(入試問題演習)を実践して、能力を伸ばしていく。															
部署コード/平均		4.00	3.25	3.75	3.00	3.38	3.25	3.88	3.00										
1		4	3	4	3	3	4	4	2										
2		4	4	3	3	3	4	4	2										
3		4	2	4	2	3	2	4	2										
4		4	3	4	3	3	2	3	3										
5		4	4	4	4	4	4	4	4										
6		4	3	4	3	4	4	4	3										
7		4	4	3	3	3	3	4	4										
8		4	3	4	3	4	3	4	4										
<取組状況・次年度への課題など>																			
①オンライン学習では、対面で行っていた古典の暗誦などは難しく、実施することはできなかったが、ロイロに古典の精読を録音するなどその補助となる学習活動を行った。 漢字小テストについては、例年より回数は少ないが対面授業の際に実施し、語句の定着を図ることができた。																			
②オンライン授業でも、発問を出したり、自分の意見をロイロで表示したり、自主性を伸ばす工夫を行った。																			
③例年よりもZOOMを使う授業は増えたため、生徒への五感を刺激する授業に対しては努力できた。一方、授業見学に関しては思うように実施できなかった。																			
④長期休みの補習がオンライン授業で行わざるを得なかったり、放課後の補習に関する時間制限が大きく、個別の対応が難しい状況にあった。																			
来年度は中学・高1新カリキュラム、探究学習が始動する。その運用がスムーズに進むよう計画し実行したい。																			

令和3年度 学校経営計画 各教科重点目標と達成方法

		地歴公民科 2021年度重点目標															
重要度 [4]大変に重要 [3]やや重要 [2]あまり重要でない [1]重要でない	項目1	目標	大学入試改革に合わせた考査の作成や受験指導方法の確立														
		達成方法	知識・技能の習得に加え、思考力・判断力・表現力の発達度を正確に測り、その力を伸ばすための考査を作成する。														
			オンラインでの授業スキルの向上とコンテンツの充実させ、学校外においても授業を実施できるシステムを構築する。														
	達成度 [4]75～100% (ほぼ達成した) [3]50～74% (まあまあ達成した) [2]25～49% (あまり達成できなかった) [1]0～24% (ほとんど達成できていない)	項目2	目標	学習指導要領改訂に先んじたカリキュラムの検討・完成													
			達成方法	①上記の目標の達成がよりスムーズになるために有効なカリキュラムを検討・作成していく。													
				②学習指導要領改定に伴い新たにできる高校生のカリキュラムについて検討していく(歴史総合、地理総合、公共)													
③また地歴公民科だけでなく、他科目とも連携できる教科横断型のカリキュラムを提案していくことも視野に入れる。																	
項目3	目標	教科内の評価基準を統一するためのルーブリックの作成															
	達成方法	論述問題における採点基準をルーブリックとして作成し、評価基準の統一を教科内で計る。															
		新たに大学入試問題を分析し本校の6年間でどのような力を身につける必要があるかを再確認する。															
		項目1		項目2		項目3											
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度										
部署コード/平均		3.56	2.78	3.78	2.11	3.56	2.00										
1		3	2	3	1	3	1										
2		4	4	4	3	4	2										
3		3	3	3	2	3	2										
4		4	3	4	3	4	3										
5		4	2	4	2	4	2										
6		3	3	4	2	4	2										
7		4	3	4	2	3	2										
8		3	3	4	2	3	2										
9		4	2	4	2	4	2										
<p><取組状況・次年度への課題など> 昨年度に引き続き、コロナ禍への対応が中心となったため上記の項目への取り組みをあまり進めることができていない状況である。 項目1においては、オンライン授業のシステム構築、スキル向上は昨年度から継続して実施することができている。 それに対し、思考力・判断力・表現力の発達度を正確に測るという点については、授業内容や定期考査の内容を精査する必要がある。 項目2においては、昨年度教科内にて情報の共有や今後の方向性について検討した。 特に総合(社会)、歴史総合、公共の3科目は来年度より新たに始まる教科であるため、教科担当だけではなく社会科全体で取り組み、その取り組みを他科目にも還元していく。 項目3については、探究型授業の検討においてどのような力を社会科で身につけていくのか検討した。 その内容を達成できるような設問、ルーブリックの研究を継続して行っていく。</p>																	

令和3年度 学校経営計画 各教科重点目標と達成方法

数学科 2021年度重点目標																				
重要度 [4]大変に重要 [3]やや重要 [2]あまり重要でない [1]重要でない 達成度 [4]75～100% (ほぼ達成した) [3]50～74% (まあまあ達成した) [2]25～49% (あまり達成できなかった) [1]0～24% (ほとんど達成できていない)	項目1	目標	授業の質の向上																	
		達成方法	①反転授業により演習量を増やすと共に、アクティブラーニングを活用し生徒の積極的な活動を促す。 ②研究授業による振り返りを行う。また積極的な授業見学を行い、意見交換をし、科としてのスキルアップを図る。																	
	項目2	目標	ICTの活用の推進																	
		達成方法	①タブレットを使った授業の実践。スタディサプリを用いて予習など自学自習を促したり、自分の作った解答を交換し合い、自らの学習姿勢を整える。 ②ロイノートやZoomを活用し、自宅からの質問にも対応し、自宅学習のサポートを行う。 ③模試や、大学入試問題の解説をビデオに撮り、インターネット上でいつでも自学自習できる環境を整える。																	
	項目3	目標	基礎学力の定着および応用力の育成																	
		達成方法	①MMTや小テスト等のこまめな実施。合格点を設け、合格するまで丁寧に指導していく。																	
			②外部模試を検証し、弱点を随時把握し、講習等を用いて補強していく。																	
			③参考書や模試や定期考査などを講習に活用し、「テスト→振り返り→類題」などさまざまな方法で応用力育成を目指す。																	
	④中学3年生、高校1年生は数学検定を全員受検。他学年においても推奨していく。																			
	項目4	目標	変わりゆく大学入試への適切な対応																	
		達成方法	①大学の入試問題を解き、教科で研究し情報共有する。また、その入試問題の特徴をシートにまとめ、生徒へ情報還元する。																	
			②全教員で各定期テストを研究し、変わりゆく大学入試に適しているかどうかなど、質の向上を行う。																	
	③研修などに参加し、教科で情報共有する。																			
		項目1	項目2	項目3	項目4															
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度											
	部署コード/平均	4.00	2.92	3.83	3.33	3.83	3.25	3.92	2.83											
1	4	3	3	3	3	3	3	3												
2	4	3	4	3	4	3	4	3												
3	4	2	4	3	4	3	4	3												
4	4	2	4	3	4	3	4	3												
5	4	3	4	3	4	3	4	3												
6	4	3	4	3	4	3	4	3												
7	4	3	4	4	4	4	4	2												
8	4	2	4	3	4	2	4	2												
9	4	4	4	4	4	4	4	3												
10	4	3	4	4	3	3	4	3												
11	4	3	3	3	4	4	4	3												
12	4	4	4	4	4	4	4	3												
<取組状況・次年度への課題など> 概ね、重要性が高く数学科として共通認識ができています。あとは、達成するためにどのように取り組むかである。 項目2,3に関しては、達成度も高く充実した結果となった。 項目1,4に関しては、まだまだ達成度が低い。特に研究授業がなかなか実施できていない。まずは各自が個人的に授業見学などを意識し、そこから研究授業へと繋げていきたい。大学入試問題については、各自が解き、個人のスキルアップには繋がっているが、その情報の教科内共有や生徒への還元がうまく機能していない。入試問題シートのマイナーチェンジや生徒への発信をmanabaなどをうまく使うなどして行っていきたい。また、研修への積極的参加、および研修で得た内容をもっと科に還元していかなければならない。																				

令和3年度 学校経営計画 各教科重点目標と達成方法

		理科 2021年度重点目標																
重要度 [4] 大変に重要 [3] やや重要 [2] あまり重要でない [1] 重要でない 達成度 [4] 75～100% (ほぼ達成した) [3] 50～74% (まあまあ達成した) [2] 25～49% (あまり達成できなかった) [1] 0～24% (ほとんど達成できていない)	項目1	目標	①生徒が理科に興味関心を抱き、進んで学習するような授業を計画し、基礎学力の定着および成績向上をはかる。 ②高校の生徒が大学受験に対応できるような環境を整える。															
		達成方法	①授業中は、生徒が主体的に学習活動を行えるように、実験や実習を多く取り入れる。 実験や観察が困難な単元では、講義型の授業だけにならないように、書く・考える・話し合うなどの活動を多く取り入れる。 授業内に小テストや振り返りを行うことにより、生徒自身が知識の定着を図れるような授業展開をする。 ②知識の定着とともに、問題演習を行うことにより、より発展的な知識理解ができるような授業展開および考査を実施する。 科目ごとにロイロで質問箱を作成し、全教員が高3生徒の質問に対応できるようにする。															
			目標	さまざまなツールを使い、オンライン授業にも対応できる授業計画を行う。														
			達成方法	①学年及び科目ごとに、効果的な授業方法を確立し、共有する。 ②ロイロやZOOM・動画を利用した授業や課題、スタディサプリを活用した予習・復習を行うことにより、家庭でも効果的に学力を伸ばせる環境を整える。														
				目標	学年・クラス・コースごとに目的をもった教科指導を行う。 ①高校3年生は、受験生指導として幅広い成績層の中で志望校別・レベル別に対応する。 ②高校2年生は、3年生から受験演習にスムーズに入れるように基礎学力の定着を図り、演習問題への着手を目指す。 ③高校1年生以下は、興味・関心を引き出すため、実験や視覚に訴える授業展開を意識する。また、基礎基本の定着を、問題演習や小テストを通して徹底する。 ④理科としての学力だけではなく、グローバル教育や環境問題なども視野に入れながら授業展開を行う。													
		項目2	目標	さまざまなツールを使い、オンライン授業にも対応できる授業計画を行う。														
	達成方法		①学年及び科目ごとに、効果的な授業方法を確立し、共有する。 ②ロイロやZOOM・動画を利用した授業や課題、スタディサプリを活用した予習・復習を行うことにより、家庭でも効果的に学力を伸ばせる環境を整える。															
	項目3	目標	学年・クラス・コースごとに目的をもった教科指導を行う。 ①高校3年生は、受験生指導として幅広い成績層の中で志望校別・レベル別に対応する。 ②高校2年生は、3年生から受験演習にスムーズに入れるように基礎学力の定着を図り、演習問題への着手を目指す。 ③高校1年生以下は、興味・関心を引き出すため、実験や視覚に訴える授業展開を意識する。また、基礎基本の定着を、問題演習や小テストを通して徹底する。 ④理科としての学力だけではなく、グローバル教育や環境問題なども視野に入れながら授業展開を行う。															
		達成方法	①学年及び科目ごとに、効果的な授業方法を確立し、共有する。 ②ロイロやZOOM・動画を利用した授業や課題、スタディサプリを活用した予習・復習を行うことにより、家庭でも効果的に学力を伸ばせる環境を整える。															
			項目1	項目2	項目3													
			重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度										
	部署コード/平均		4.00	3.25	3.50	3.38	3.88	3.25										
1		4	3	3	3	4	3											
2		4	4	3	4	4	4											
3		4	3	4	3	4	3											
4		4	3	3	3	3	3											
5		4	4	4	3	4	4											
6		4	3	4	4	4	3											
7		4	3	3	4	4	3											
8		4	3	4	3	4	3											
<取組状況・次年度への課題など> 項目1: 学年や科目の実態に応じて、各教員でできる工夫はできているように思う。コロナの影響で実験などはできないものがあったが、そのぶんオンラインならでは工夫ができた。受験指導に関しては、ロイロ上で担当の教員以外ともつながれるようにし、教科全体でフォローできる体制が整いつつあるので、続けていきたい。 項目2: 昨年の経験が生かされた。活用の度合いは学年や科目によるので、良いものはシェアし、さらに教科全体でレベルアップを計りたい。 項目3: 状況的に致し方がないが、実験や観察などが十分に行えず、歯がゆい。演習は、対面・オンラインと、それぞれの良さを生かして行っている。グローバル問題や環境問題については、時間数の関係であまり触れられていない科目が多い。探究的な活動のなかに組み込んでいきたい。																		

令和3年度 学校経営計画 各教科重点目標と達成方法

		保健体育科 2021年度重点目標																	
重要度 [4]大変に重要 [3]やや重要 [2]あまり重要でない [1]重要でない 達成度 [4]75～100% (ほぼ達成した) [3]50～74% (まあまあ達成した) [2]25～49% (あまり達成できなかった) [1]0～24% (ほとんど達成できていない)	項目1	目標	「グローバル社会」への対応力と主体性を育む																
		達成方法	・自分で考え、行動するだけでなく教え合いながらコミュニケーション能力を高め、自分の考えや主張など、的確に伝えられるようにする。																
	項目2	目標	授業規律の向上																
		達成方法	・チャイムと同時に体操・トレーニングを開始するなど、授業を受ける基本的な姿勢を身に付ける																
	項目3	目標	安全への配慮・感染症対策の徹底																
		達成方法	・用具点検、運動不足による体調不良、マスク着用による身体的負担増など、施設面や体力面、季節に合わせ、効率的かつ効果的な授業展開を共有し実践して行く。																
・対人競技の指導内容を工夫し、状況に応じて適切に行動できるようにする。																			
		項目1		項目2		項目3													
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度												
部署コード/平均		3.80	2.80	3.80	3.00	4.00	3.80												
1		3	3	3	3	4	4												
2		4	3	4	3	4	3												
3		4	2	4	3	4	4												
4		4	3	4	3	4	4												
5		4	3	4	3	4	4												
<取組状況・次年度への課題など> 項目①については、コロナの影響で教え合う等の「コミュニケーション能力を發揮して、能力(技術)を高めていく」という指導が十分に実施することができなかった。 項目②については、達成度としては数値が高くないが、各授業に於いて、しっかりと身に付けさせることができた。 項目③については、指導方法が制限される中、情報を共有し、工夫しながら達成することができた。 来年度の課題としては、 ①実技授業のオンライン授業対応 ②各競技動画作成 ③安全管理・感染症対策の徹底などに重点を置いて指導に当たる。																			

令和3年度 学校経営計画 各教科重点目標と達成方法

芸術科 2021年度重点目標														
重要度 [4]大変に重要 [3]やや重要 [2]あまり重要でない [1]重要でない 達成度 [4]75～100% (ほぼ達成した) [3]50～74% (まあまあ達成した) [2]25～49% (あまり達成できなかった) [1]0～24% (ほとんど達成できていない)	項目1	目標	①より丁寧な対面教育を心掛け、生活習慣の基礎を身に付けさせるとともに、生徒本人の主体的な取り組みを促す。 ②芸術活動方法、技能の解説をタブレットなどのICTを使い、より深くわかりやすい授業を展開していく。											
		達成方法	①生徒間・生徒教員間の自由な意見交換を促すと共に、主体的な芸術の構築に努め、高いレベルの演奏・作品を目指す。 ②授業の内容に応じてタブレットなどのICTを使って、課題の理解を深めさせる。											
	項目2	目標	芸術活動を通じて、目標に向かって諦めずに努力する姿勢を養い、達成感を通して豊かな心を養う。											
		達成方法	①挨拶、姿勢、授業態度に留意し、芸術に取り組む基本的な心構えを習得させる。 ②音楽・美術・書道それぞれの科目の中で与えられた課題に真摯に取り組む、目標に向かって最後まで諦めずに努力する姿勢を養う。											
			③高い目標を設定し、目標を達成するために仲間と協力し、その過程で生じる様々な問題を自ら解決していく力を育てる。											
	項目3	目標	生涯にわたって芸術を愛好する心情を育てる。											
		達成方法	芸術の崇高さと力強さを理解させ、芸術が自己及び第三者の心を豊かにすると共に、生きる力を与えることができることを実例をもって理解させる。											
		項目1	項目2	項目3										
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度							
部署コード/平均	3.67	3.00	4.00	3.33	3.33	2.67								
1	4	3	4	3	3	3								
2	4	3	4	4	4	2								
3	3	3	4	3	3	3								
<取組状況・次年度への課題など> ①に関して、本年もコロナ過での実施のため、丁寧な対面授業が実施しにくかった。しかしながら、タブレットを使ったオンライン授業の充実によって生徒たちの混乱は昨年よりも少なかった。また、通常授業がはじまってからもオンライン学習中に培ったコンテンツを使い幅広い授業展開ができた例もある。 ②に関して、芸術科として最も大切にしていべき項目との共通認識がある。コロナ過での実施のためカリキュラムの変更を余儀なくされた部分もあったが、今まで利用していなかったICT機器によって補足できた部分もある。 ③に関して、①②の結果として育まれるものである。対面授業数の少なさが悔やまれる。														

令和3年度 学校経営計画 各教科重点目標と達成方法

外国語科 2021年度重点目標		
<p>重要度 [4]大変に重要 [3]やや重要 [2]あまり重要でない [1]重要でない</p> <p>達成度 [4]75～100% (ほぼ達成した) [3]50～74% (まあまあ達成した) [2]25～49% (あまり達成できなかった) [1]0～24% (ほとんど達成できていない)</p>	項目1	<p>目 標</p> <p>①「アカデミックな英語力」を目指した英語の授業の充実を目指す。</p> <p>②英語やフランス語などの外国語を積極的に使ってコミュニケーションをはかるスキルとマインドセットをやしなう。</p> <p>③外国語学習が目的ではなく、生徒それぞれの目的を達成するための強力な力であるという認識を生徒も教員も全員で共有する。</p>
		<p>達成方法</p> <p>①クラスルームイングリッシュを多用し、生徒の多様な英語活動を授業に取り入れる。</p> <p>②オンライン英会話を家庭で積極的に行うことで、英語での実践的な会話力を養う。それによって外部検定試験の結果に繋げる。</p> <p>③アクティブラーニングを実践し、またロイノート等も活用しながら、生徒の能動的な授業参加を促す。</p> <p>④生徒がグループワークとして課題プレゼンテーションを英語でするように指導する。</p> <p>⑤プレゼンテーションコンテストの指導を通して、生徒が大勢の人に対して自分の意見を英語で効果的に発表できるようにする。</p> <p>⑥ディベートの指導を通して、生徒が相手の立場を理解して、論理的に考え、自分の考えを相手に効率的に英語で伝えられるようにする。</p>
		<p>目 標</p> <p>①目標の進路にふさわしい外国語のスキル向上を推進することに、所属学年を問わず協力する。</p> <p>②アドバンストクラスの生徒はTEAP等の4技能のバランスのよいスコアの獲得を土台に、志望校に進学できるように支援する。</p> <p>③GLC生はさらに積極的に世界標準の検定試験の受験に挑戦し、そのスコアを活用して受験し、志望校に進学できるようにする。</p>
		<p>達成方法</p> <p>①ICTの活用を促進する。教科書本文の解説、英文法や英語構文の分析・解説をビジュアル的にわかりやすく行う。</p> <p>②パワーポイントを利用して、動画やイラストを利用し、アニメーション機能を使って英文を立体的に理解できるようにする。</p> <p>③デジタル教科書のフラッシュカード、スラッシュリーディング、シャドーイングなどの機能を使って生徒の理解を促進する。</p> <p>④タブレットのスタディサプリなどで家庭学習を促進し、英語の合計学習時間を学校での授業時間の2倍以上になるようにする。</p> <p>⑤授業のスピードを上げ、教科書の範囲を早く終える。余剰時間を利用して模試対策や入試過去問演習を授業時間内に実施する。</p> <p>⑥早朝・放課後の補習体制を整え、理解の遅い生徒を助け、生徒の全体的なレベルアップに繋げる。</p>
		<p>目 標</p> <p>①カリキュラム内容を精査・整理し、6か年を通じた指導内容や指導方法についての認識を外国語ネイティブ・日本人教員の全員で共有し、統一化を図る。</p> <p>②GLCの授業活動が牽引力となってアドバンストクラスの英語の授業が変化するようにする。それによって、学校全体が「グローバル」の意識を持って、世界の課題を理解し、主体的に考えて行動するようにする。</p> <p>③英語だけでなく第二外国語としてのフランス語の教育の普及を促進する。</p>
		<p>達成方法</p> <p>①ネイティブと日本人教員の協力を進め、教員間の英語でのコミュニケーションを密にする。教科会での英語の使用をより多くする。</p> <p>②英語の授業を教員がお互いに参観する。必ず授業後の意見交換をする。</p> <p>③他教科の教員と連携を深める。特に生徒の日本語でのディベート力が伸びるように、校内の環境を整える。</p> <p>④海外提携校との連携を深める。帰国した生徒同士が交流する機会を多くする。両校の教員同士が互いを理解し新たな企画をする。</p> <p>⑤グローバル教育発表会やコリブリの交流・留学を通じてフランス語の学習を盛んにする。仏語のネイティブの授業環境をより良くする。</p>
	項目3	<p>目 標</p> <p>①カリキュラム内容を精査・整理し、6か年を通じた指導内容や指導方法についての認識を外国語ネイティブ・日本人教員の全員で共有し、統一化を図る。</p> <p>②GLCの授業活動が牽引力となってアドバンストクラスの英語の授業が変化するようにする。それによって、学校全体が「グローバル」の意識を持って、世界の課題を理解し、主体的に考えて行動するようにする。</p> <p>③英語だけでなく第二外国語としてのフランス語の教育の普及を促進する。</p>
		<p>達成方法</p> <p>①ネイティブと日本人教員の協力を進め、教員間の英語でのコミュニケーションを密にする。教科会での英語の使用をより多くする。</p> <p>②英語の授業を教員がお互いに参観する。必ず授業後の意見交換をする。</p> <p>③他教科の教員と連携を深める。特に生徒の日本語でのディベート力が伸びるように、校内の環境を整える。</p> <p>④海外提携校との連携を深める。帰国した生徒同士が交流する機会を多くする。両校の教員同士が互いを理解し新たな企画をする。</p> <p>⑤グローバル教育発表会やコリブリの交流・留学を通じてフランス語の学習を盛んにする。仏語のネイティブの授業環境をより良くする。</p>

令和3年度 学校経営計画 各教科重点目標と達成方法

	項目1		項目2		項目3													
	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度												
部署コード/平均	3.64	3.14	3.64	3.21	3.64	2.79												
1	3	3	3	3	3	3												
2	4	3	4	3	4	2												
3	4	3	4	3	4	2												
4	4	4	4	4	4	3												
5	4	3	4	3	4	3												
6	4	3	4	3	4	3												
7	3	3	3	3	3	3												
8	3	3	3	3	3	3												
9	3	3	3	4	3	3												
10	4	3	4	3	4	3												
11	4	3	4	4	4	3												
12	3	3	3	3	3	2												
13	4	4	4	3	4	3												
14	4	3	4	3	4	3												

<取組状況・次年度への課題など>
 今年度より日本人教員・ネイティブ教員で教科会を別々に開催し、それぞれの母語を用いてより活発な議論を行うことを目標とした。その上でそれぞれのチームでコースごとの6年間の教育内容の整理に年間通じて取り組み、Grand Designと銘打った内部向けの大まかな方針も作成することができた。
 達成度評価については、教科としても教員個人としても技能中心主義に基づいた授業内容の検討の過程にあることが表れた結果として理解できるが、項目3の達成度が低いことについてはそもそも教科会を日本人・ネイティブの合同で行うことを前提としており、目標設定に誤りがあったためと考えられる。
 次年度の課題としては、さらに技能中心主義に基づいた授業内容の研究を教科として進めることと、今年度と同様の教科会体制に基づいたより有効で活発な議論の場としての教科会の実施を進めていきたい。

令和3年度 学校経営計画 各教科重点目標と達成方法

重要度 [4]大変に重要 [3]やや重要 [2]あまり重要でない [1]重要でない		達成度 [4]75～100% (ほぼ達成した) [3]50～74% (まあまあ達成した) [2]25～49% (あまり達成できなかった) [1]0～24% (ほとんど達成できていない)		家庭科 2021年度重点目標															
				項目1	項目2	項目3													
重要度		達成度		目標	アクティブラーニング授業を展開し、「自ら学ぶ姿勢」を身に付け、生徒自らが実践していくように導く、質の高い授業を展開できるようにする。														
				達成方法	質の高い授業展開を目指して、電子黒板・タブレットなどのICTを充分活用した指導ができるよう、自己啓発し、開発、研修に力を注ぐ。 コロナ下での実習が不可である時期は、各家庭で実習が取り組みやすいように動画等の作成に取り組む。														
重要度		達成度		目標	社会生活の中で、知識だけでなく生活力も兼ね備えた人物に育てる														
				達成方法	学習の中で、自ら生活環境を整えることの大切さを知り、心身ともに健康が維持できるよう多くの実践の場を持たせる 学力は、知識のみでなく実践を伴ってこそ生かされることを、日々の生活の中で自ら気づき、理解できるように指導する。														
重要度		達成度		目標	「目標に向かって最後まで諦めず努力する姿勢」を培える場面を多様に配置する。														
				達成方法	実習・課題、検定等を通して、成功体験を重ねることで、自らの行動に自信と誇りを持つことができるようにする。さらに、最後まで諦めず努力することの素晴らしさや、やり遂げたときの達成感を体感することで、さらにその気持ちを高められるようにする。														
				項目1	項目2		項目3												
				重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度										
部署コード/平均		4.00	3.33	4.00	3.00	4.00	3.67												
1		4	3	4	3	4	4												
2		4	4	4	4	4	4												
3		4	3	4	2	4	3												
<p><取組状況・次年度への課題など></p> <p>項目1 学校でできない実習などの動画作成に十分取り組んだ。次年度は、今年度作成した資料をより活用しやすいように見直したり、今後も増やしていきたい。</p> <p>項目2 オンラインにより、家庭で振り返る時間を取ることができたが、自ら応用を実行するまでの取り組みに至らせていない。次年度は、基礎だけでなく、自分なりに「よりよく生きる」ことができるように授業の取り組みを充実させたい。</p> <p>項目3 オンライン授業のため課題を減らして取り組ませた。あまり達成目標は下げたくないが、1つつししっかり取り組み、達成感をより感じることでできる課題を検討していかなければならない。</p>																			

令和3年度 学校経営計画 各教科重点目標と達成方法

		情報科 2021年度重点目標																	
重要度 [4]大変に重要 [3]やや重要 [2]あまり重要でない [1]重要でない 達成度 [4]75～100% (ほぼ達成した) [3]50～74% (まあまあ達成した) [2]25～49% (あまり達成できなかった) [1]0～24% (ほとんど達成できていない)	項目1	目標	ICTを活用する授業の実践																
		達成方法	・既存のロイロノート・スクールやmanabaに加え、新たにGoogle Workspace(旧G Suite)などのクラウドシステムを活用した授業を検討・実践する。 ・情報活用委員会と連携し、システムトラブルやアプリケーションのアップデートに対応しつつ、授業を円滑にすすめられるよう校内のICT環境の整備に努める。 ・動画や検定の活用など、休校等になった場合をふまえ、オンライン授業へのシームレスな移行を念頭に置いた授業展開を行う。																
	項目2	目標	生徒が積極的に参加する授業の実践																
		達成方法	・オフィスソフトについて、基本的な操作方法の習得だけでなく、実践的に活用できるように、演習を中心にして、生徒が自ら学び考えて効率の良い操作方法を身につけるように促す。 ・ICTの知識習得だけでなく、問題意識を持ち主体的に考えて行動できるようにする。 ・オンラインの共有ツールを活用できる授業展開を行う。																
	項目3	目標	社会の変化や最新のICT技術に対応する																
		達成方法	・最新のICT技術の動向を常に注視し、外部研修会や展示会等に積極的に参加し教員間での情報共有に努める。それらを授業に還元できるよう努める。 ・外部資格試験を効果的に取り入れる。 ・大学入学共通テストの動向に注目する。																
		項目1		項目2		項目3													
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度												
部署コード/平均		3.00	4.00	4.00	3.00	3.00	4.00												
1		3	4	4	3	3	4												
<取組状況・次年度への課題など> 項目1: 高校生対象にGoogleアカウントの配布を完了し、授業での活用を開始した。既存のシステムとの併用や変更を視野に入れ、次年度も継続して活用方法などを検証していきたい。休校等時の対応については、前年度までに作成した動画等を活用した授業展開を実施できた。																			
項目2: オンラインツールは積極的に活用することができたが、生徒の主体性を引き出すという点においては、まだ改善の余地があるように感じた。探究型授業を展開していくにあたり、次年度も継続して検証していきたい。																			
項目3: 外部資格試験(P検など)については、授業での効果的な活用を行った。大学入学共通テストについては、引き続き情報収集を行い、新課程での対応に備えていきたい。																			